

# わいわいメーター実証実験でわかったこと

株式会社リコー  
日本科学未来館  
2014年5月1日  
(6/23更新)

懸念、課題	改善策、申し送り（カッコ内）
1. 環境の多様性 BGM（特にキャリブレーション時）、参加者の 出入り、天気や時間による照度変化	今回の実証データを元に妥当な閾値（S/Nや相転移定義）を設定する。 （閾値を手動設定可能としたうえでチューニングのインターフェースを用意できれば、多様な環境で使用およびデータ収集可能ができる）
2. 採点指標の非線形性 グループごとにパターンが強く、グループをまたいだ汎用性を持たせにくい	音の得点を指数関数で表示するようにする。[←対応済]（将来的には紐付けされた主観データとの相関などから補正方法をモデル化できるかもしれない）
3. インタフェースによるつまづき ① 縦画面で使用すると見づらい ② 利用者がアクションを選びにくい ③ 結果の解釈がうまくいかない	今回のアルファ版プロトタイプではシンプルに徹する ① 横画面固定[←対応済] ② (ボタンのテキストで誘導) ③ 客観採点と主観採点の対比[←対応済] (ログの推移を強調)
4. 採点時のエラー脆弱性 回線不調（実証版）、アップデート、アプリバグ	（録画採点機能を実装することでビデオアーカイブデータへの応用など展開先をひろげられる）

発見、気づき	今後に向けた考察
沈黙の多様性 ・ アイデア連鎖の核となる発言に先立つ沈黙 ・ アイデア連鎖の核となる発言直後の沈黙（聞き手の中で解釈やリフレーミングが起きている？）	具体的シーンの蓄積と考察分析に平行して、観察分析者の感知および解釈の幅をひろげることが求められる。
笑いの多様性 ・ 本音を語る際に伴う笑い（緊張緩和？） ・ 意図しない文脈間の結合にともなう笑い ・ 意図して場を和ませる笑い（ジョーク、いじり） ・ 時間などの制約や課題に気付いた際の笑い	同上
創造活動の多様性 ・ 主体者不在のアイデア ・ 思いつきや冗談が具体的に検討されることで発展	今回のシェフや2011年の学生復興会議における建築家のようにアイデアを試作やデッサンなどによって可視化共有できる学生とプロの協働が有効と考えられる。